

【事業実績】「みんなでつくる、ふれる、つながる文化財の複製」事業

～地域に伝わる国宝が、地域の誇る宝であり続けるために～

熊野速玉大社の国宝、熊野速玉大神坐像・夫須美大神坐像・家津御子大神坐像・国常立命坐像は、日本の宝、国宝に指定された平安時代の神像彫刻です。これらの神像が安全な保管のため県立博物館に寄託されて20年。やむなく地域を離れた文化財が地域に忘れ去られることなく、地域の文化財が市民・県民・国民にとって誇るべき豊かな遺産であることを実感する機会の創出を目指しました。

事業1 複製の造形 ～3D複製技術を用いた国宝神像彫刻の複製製作～

複製の造形には、3D複製技術を学ぶ県立和歌山工業高等学校産業デザイン科3Dモデリング班の生徒たちが取り組みました。先端技術の教育やものづくりの視点と、文化財との接点が生じる意義は大きく、文化財の未来を担う世代が文化的知識を得て、社会貢献につなげる手段を学ぶ効果も期待できます。



作業を通して神像の特徴を発見していく▶



①計測



②データの修正



③出力（造形）



④積層痕の除去

事業2 複製の着色 ～複製製作に地域で取り組むワークショップ～

複製製作の次のステップ、下地処理や着色に、地域の小・中学生や住民が携わるワークショップを実施。地域のみんなで国宝の複製をつくりました。和歌山大学ミュージアム・ボランティアの大学生が、事前に地域の信仰を学んだり、道具の事前準備を行ったりして、サポートスタッフを務めました。小中学生18名、保護者、中学校美術教諭、敬神婦人会等、全部で40名をこえる参加がありました。

ワークショップ広報用チラシ▶



▲やすりがけ・下地塗り・着色の3工程



▲大学生が解説・指導する



参加実績：小学生 14名（内訳：2年生4名、3年生1名、4年生5名、5年生2名、6年生2名）
中学生 4名（内訳：1年生1名、2年生3名）

【ワークショップ準備期間には、学校現場からこんな声が聞かれました】

- ◆ 新宮市から博物館は車で片道 3 時間以上、学校見学でも家庭でも、当地域の子どもたちが博物館を利用できる機会は少なく、博物館の出張イベントはありがたい。(新宮市立熊野川小学校・6 年担任)
- ◆ 国宝にふれる機会は貴重。文化財の複製にも関心をもった。(新宮市立緑丘中学校・美術担当教諭)
- ◆ 今回のワークショップはとても貴重な体験となると思うので、生徒や保護者にも広く投げかけたい

事業 3 複製の奉納 ～地域コミュニティと文化財保存活動の接点～

熊野速玉大社にて、完成した神像の複製を納める奉納奉告祭を行いました。完成した複製は、境内の熊野神宝館内に安置され、公開されています。造形に取り組んだ高校生、複製彩色ワークショップの参加者、そして地域の祭事を支える住民を中心に 50 名以上の参列がありました。また、熊野速玉大社蔵国宝古神宝類の専門家でもある県立博物館館長が子どもたちや参列者に宝物の解説を行いました。

完成した神像の複製▶



▲奉納奉告祭に参列する地域住民と子どもたち



▲安置された複製



▲国宝について学ぶ参加者



【ワークショップおよび奉納奉告祭参加者の感想】

- ◆ 自分のところの神様がこんな顔をしているなんて知らなかった。(神倉小学校・2 年)
- ◆ 文化財の色や形がこんなに細かい作業でできていることを知って驚いた。(熊野川中学校・2 年)
- ◆ 修理をする人など、文化財の仕事をする人がかっこいいと思った。(緑丘中学校・2 年)

事業 4 複製の公開 ～文化財複製の多様な活用に向けて～

和歌山県立博物館の特別展（世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」登録 20 周年記念特別展「聖地巡礼一熊野と高野」第Ⅳ期展示「熊野信仰の美と荘厳一熊野速玉大社の神像と古神宝一」）にて実物の国宝神像 2 軀の展示をおこなうのにあわせて、事業の紹介を行った。

取組紹介動画を製作▶



公開動画 URL：<https://www.youtube.com/watch?v=oAGmfKQgM00>

(和歌山県立博物館 Youtube チャンネル)

取材等：読売 TV「関西情報ネット ten!」神像レプリカ特集
来館者数：11,207 人（展示室 9,453 人＋ロビー展 1754 人）
博物館講座：96 人「神のすがた一熊野速玉大社御神像一」
学校見学：和歌山市内小学校 5 校、湯浅町内小学校 1 校

ロビー展示・動画公開の様子▶

